

第5部 生活行動圏別の 沿線まちづくりの考え方

- I 生活行動圏の沿線まちづくりの基本的な考え方
- II 川崎駅・臨海部周辺エリア
- III 川崎・小杉駅周辺エリア
- IV 中部エリア
- V 北部エリア

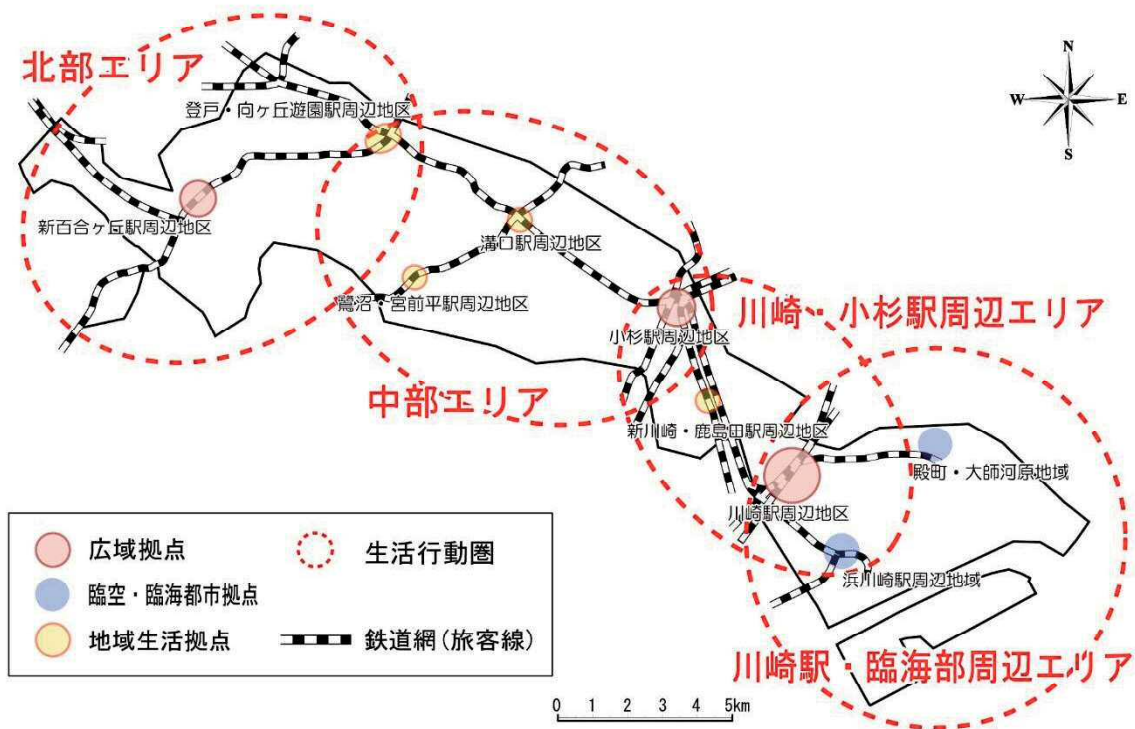
I 生活行動圏の沿線まちづくりの基本的な考え方

1 生活行動圏の沿線まちづくりの考え方について

市民の身近な日常生活は、住まいを起点に、近隣地域から身近な駅やターミナル駅周辺など、鉄道に沿ったエリア（行動圏）で展開していることから、市民の行動圏に着目した4つの行動圏域ごとに、鉄道を主軸とした、身近な地域が連携する沿線まちづくりの考え方を示します。

- ・これまで取り組んできた拠点地区での多様な都市機能集積等によるまちづくりの効果が、効率的かつ効果的に身近な地域に波及するよう、市民の生活行動の軸である鉄道を中心に、環境にやさしく、鉄道沿線や身近な地域が相互に連携した一体的なまちづくりを促進します。
- ・そこで、エリア内における交通特性や拠点地区、地域資源の分布等の地域特性を活かしながら、鉄道沿線の特徴や動向に着目した、まちづくりの考え方を示します。
- ・ここに示す考え方は、さらなる少子高齢化に伴う社会的要請を見据えた身近なまちづくりを進める上で、生活行動圏を踏まえた機動的なまちづくりや市民主体のまちづくりの場面で活用していきます。

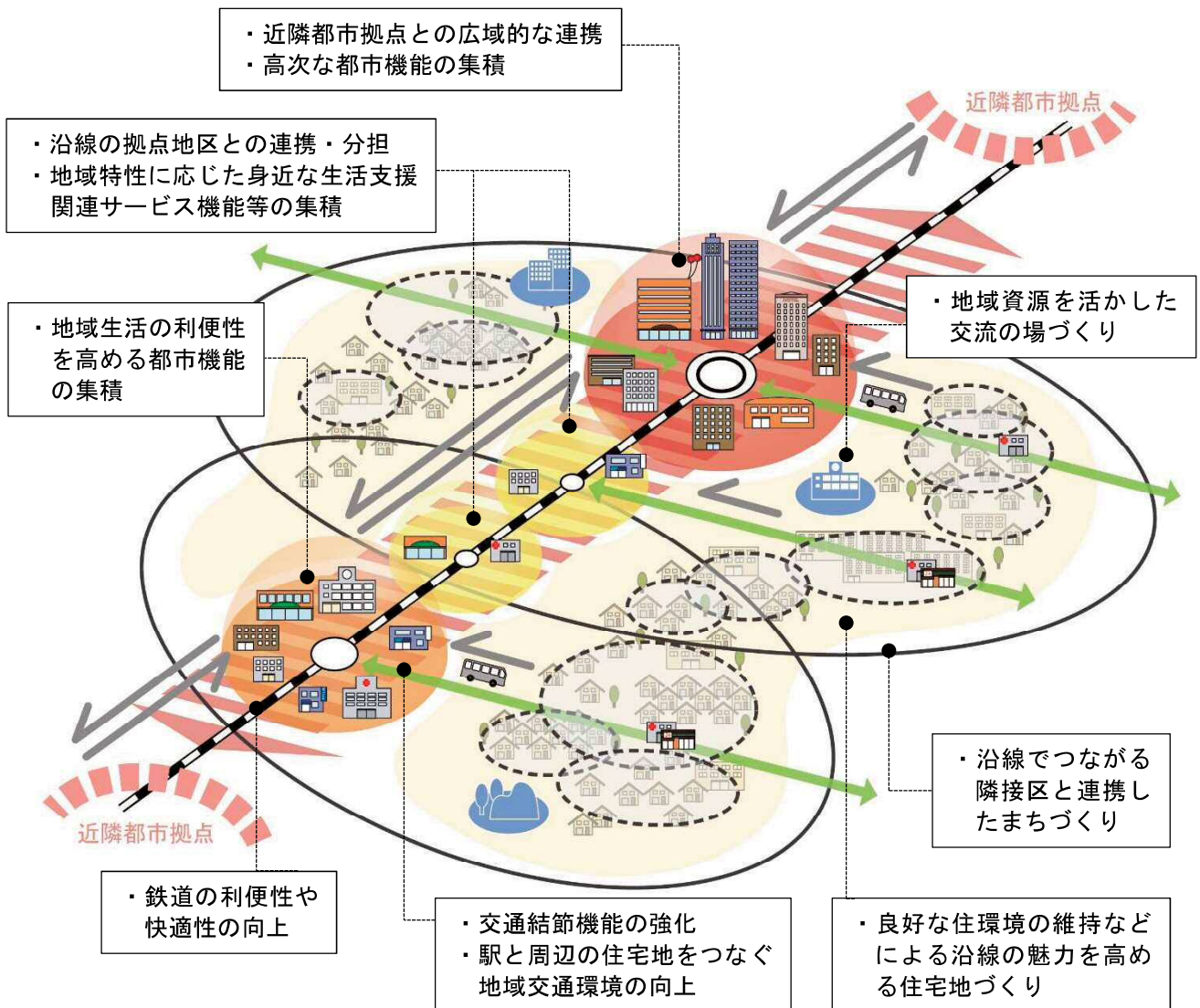
【4つの生活行動圏】



2 生活行動圏の沿線まちづくりイメージ

- ・ 鉄道の利便性の向上を図るとともに、その沿線では、近隣都市拠点との広域的な連携や、エリア内での都市機能の連携・分担を見据え、拠点地区の都市機能の向上を図ります。
あわせて、身近な駅周辺においても日常生活を支える商業や生活支援関連サービス機能等の集積を図り、沿線全体の一体性を高め、さらなる都市機能の向上を図ります。
- ・ 駅や駅周辺に集積する都市機能を周辺の住宅地から利用しやすい環境とするため、駅と周辺の住宅地等をつなぐ地域交通環境の向上を図るとともに、周辺の住宅地においても、良質な住環境の維持や地域特性に応じた良好な住環境の形成など、多様な世代の居住につながる新たな住まいや住まい方の誘導を図ります。
あわせて、地域資源を活かした交流の場づくりなど、様々な地域課題に対応した住民主体のまちづくり活動の促進を通じ、生活行動圏の魅力づくりをめざします。

【生活行動圏の沿線まちづくりイメージ図】



第1部

改定の趣旨等

第2部

まちの現状・課題

第3部

都市づくりの基本理念

第4部

分野別の基本方針

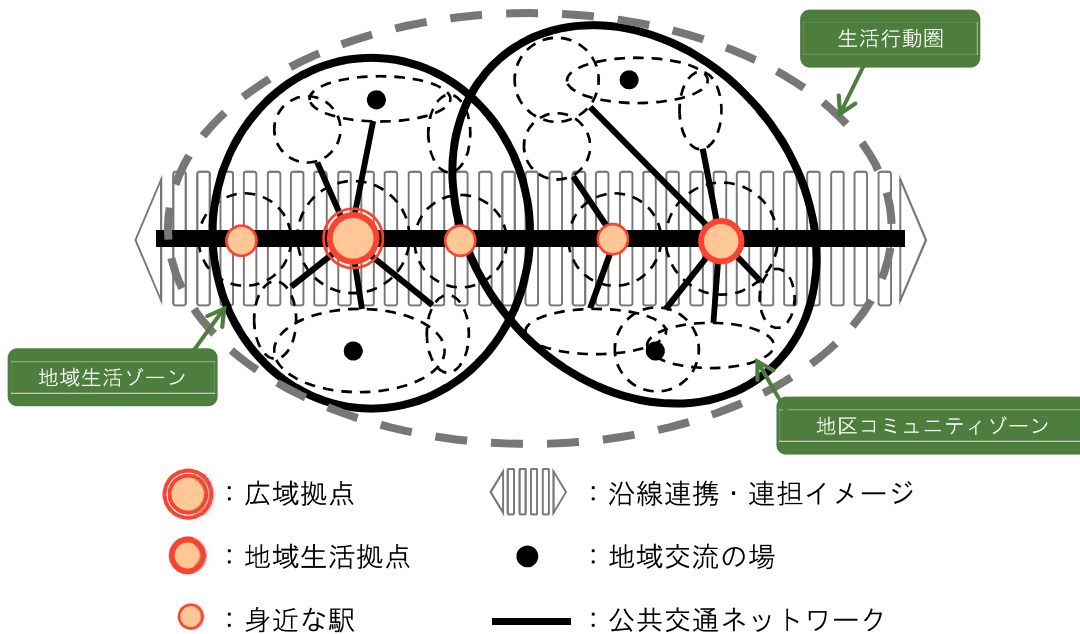
第5部

生活行動圏別の沿線まちづくりの考え方

第6部

計画の実現・推進方策

【身近な地域連携の概念イメージ図】



出典：川崎市総合計画（総論）

■拠点等

● 広域拠点	生活行動圏の中心となる拠点
● 地域生活拠点	地域生活ゾーンの中心となる拠点
● 身近な駅周辺	拠点地区と鉄道沿線につながる身近な駅

■軸・ネットワーク

⇄ 都市軸	沿線まちづくりを推進するうえで、基幹となる軸（拠点地区を含む鉄道沿線の地域）
⇄ 公共交通ネットワーク	駅や駅周辺と居住地等を結ぶ身近な地域交通ネットワーク

■地域間連携

← 人の動き	買い物や通勤等の日常的な人の動き
--------	------------------

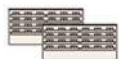
■圏域

○ 地域生活ゾーン	ターミナル駅等を中心とした概ね行政区の単位
○ 地区コミュニティゾーン	住まいを起点とした町内会や自治会などの地域の基礎的な単位。居住地の魅力を高める、防犯・防災や街なみづくり、地域の見守り、地域ぐるみの緑化の活動など、地域固有の課題やテーマに応じた身近なまちづくり活動を行う範囲

■その他

● 地域資源	自然的資源や歴史・文化的資源、大学、産業集積などの地域の特性に応じた沿線の魅力となる資源
--------	--

居住地の魅力をもつまちづくりの例



住宅団地では…

老朽化した団地の再生や高齢者の見守り・支援等のまちづくりの取組など



密集市街地では…

密集市街地における地域住民との防災・減災のまちづくりの取組など



高齢化の進む住宅地では…

住宅地の空き家を活用した多様な世代の交流の活性化の取組など